

道産材の特徴を活かしたCLTパビリオン(実験棟)

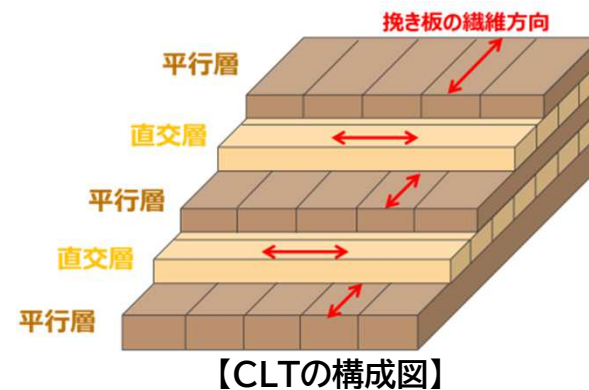
カラマツ・トドマツの強度を活かしたデザインや、施工性や意匠性を高めた接合を実現しました

背景

- 都市の木質化や中高層建築物の木材利用において、新たな木質パネルであるCLT(直交集成板)への期待が高まっています。

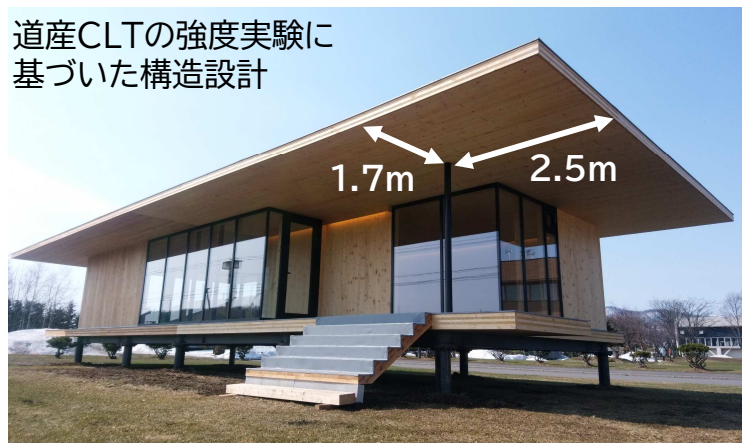
成果

- 道産CLTの接合部の設計データを整備しました。
- 道産CLTの可能性を検証・普及するパビリオンを林産試験場内に建設しました。



1 ダイナミックなデザインの屋根

道産CLTの強度実験に基づいた構造設計



延床面積 : 83m² 屋根サイズ: 19.5×8.6m

2 施工性や意匠性に優れた接合



3 道産材の良さを肌で実感

R1年度末までの見学者: 1,200名



行政、木材・建築業界などの関係者を対象とした見学会やセミナーを実施

期待される効果

○強度や材色など道産CLTの優位性を広くPRできるパビリオンにより道産CLTの普及促進が可能になりました。

協力機関: 北方建築総合研究所、北海道大学、北海学園大学、森林総合研究所、建築研究所、国土技術政策総合研究所、(一社)日本CLT協会、木構造振興株式会社